

コロナ禍の世界

横浜市駐在員リポート

23

インドでは1日の新規感染者数が右肩上がりです。推定していたが、9月中旬をピークに下がり始めた。現状、感染している人も40万人以上減り、回復率も約90%で日本とほぼ同水準である。

感染者数が多いマハラシュトラ州でも10月から飲食店が営業を再開。ムンバイのメトロも部分的に運行再開となった。徐々にで

ムンバイ



営業が再開された飲食店=18日、ブネ市

祭事期の期待と不安

はあるが、経済活動が戻ってきていることを感じる。しかしヨーロッパと同様、インドでも感染の拡大が懸念されている。例年、この時期に深刻化する大気

汚染は呼吸器疾患を引き起こす恐れがあり、呼吸器機能の低下に伴う感染拡大が不安視されていることに加え、11月中旬にはヒンズー教の新年を祝うインド最大の祭り「ディワリ」を控えているからだ。

さらに、この時期の買い物は「縁起が良い」とされているため、年間で最も消費が高まる時期でもある。どの業界もこの祭事期を起

爆剤として、V字回復につなげたいと考えており、国も政府職員全員に現金を前渡しするなど、消費の喚起に取り組んでいる。

祭事期には毎年、至る所で人が集まって爆竹や花火を夜通し楽しむ光景が見られる。感染拡大が懸念されるこの時期、一人一人の行動が今後の感染状況に大きく影響を及ぼすはずだ。

新年を迎えて一年の幸せと健康を祈る時、例年以上に健やかな一年を祈る人が今年は多くなるだろう。

（横浜市ムンバイ事務所長 松島 一志）